なかよし旬間　校長先生のお話

　皆さんは、ジョージワシントンという名前を聞いたことがありますか。
　ワシントンは、アメリカの父（アメリカの基を創ったお父さん）といわれています。今から 300 年以上も前のアメリカの初代大統領です。強い心と優しい心を持っていたので、多くの人々から大変慕われていました。
　ワシントンが子どもの頃、大変いたずらっ子だったことは有名です。そのワシントンがあまりにいたずらや乱暴をするので、お父さんは、ワシントンが悪いことをするたびに、台所の柱に太い釘を１本打ちました。
　毎日ワシントンが、友だちをいじめたり、泣かしたり、意地悪したり、かみついたり、いろいろなことをするものですから、台所の柱はたちまち釘だらけになりました。
　でも、お父さんは、ワシントンが友だちに優しくしたり、いいことをしたりすると、釘を１本ずつ抜いてくれました。何日か過ぎていくうちに、ワシントンは、少しずつ善い行いができるようになり、人にも優しくできるようになりました。やがて柱の釘は全部抜けました。
　お父さんは、ワシントンを呼んで、
「このごろワシントンは人の役に立つことができるし、困っている人を助けることもできているし、私は本当に嬉しい。この柱に釘は１本もなくなったよ。」といって柱をなでて見せました。ワシントンも喜んで柱をなでました。
そのときです。お父さんは続けてこう言ったのです。
「でもね、ここにできた釘の穴は神様でなければ元に戻すことはできないんだよ。」
ワシントンは、ハッと気がつきます。
　柱についたたくさんの跡、これは釘を抜いた跡で、柱が元に戻ることはありません。釘は、柱を傷つけ、穴を空けたままです。
ワシントンが気づいたことは、
「人を傷つけ、悲しませてしまうと、いくら後から謝っても、代わりにこれをするから許してと言って、相手が『いいよ』と言ってくれても、相手に与えた心の傷、この傷は神様しか治すことができない。誰も治すことができない。ずっと相手の心の中に傷として残ってしまう。だから、相手の人を深く傷つけ、忘れることができないほど悲しませることは決してしてはいけないんだ。」
ということだったのです。
　このことがあってから、ワシントンは人をいじめたり、仲間外しをしたり、乱暴したりするようなことをやめ、人の役に立てること、人を大切にできることを考え、行動に移していったと言います。

　皆さんは、どんな自分になりたいですか？
　人を傷つけてしまうことは、誰にもあることです。ワシントンは、相手に与えた心の傷は、神様にしか治せない、誰も治せないと気づいた　という場面がありました。深い心の傷は本当にそうだと思います。
　ただ、自分が相手に悪いことをしてしまったと気づいたときには、心から「ごめんなさい。」という気持ちを心の底からしっかり伝えることができれば、その思いは、相手の心に届くと僕は信じています。